

4

地図 NO.

イベント名 みつけよう! 森のめぐみ大作戦inエコパ

主催 静岡県中遠農林事務所・小笠山森の会 問い合わせ先 0538-37-2301 (猿田)

森づくり県民大作戦シンボルイベント



快晴のこの日、アルプホルンの暖かな音色がファンファーレとなり、緑豊かな会場(袋井市の小笠山総合運動公園・エコパ)を包み込みました。大村慎一(前副知事)さんから開会の挨拶があり、森づくり県民大作戦シンボルイベント「みつけよう! 森のめぐみ大作戦inエコパ」がスタートしました。このイベントは、平成24年11月に



静岡県で開催される『第36回全国育樹祭』の一年前のカウントダウンイベントでもあり、様々な体験にチャレンジする中で、森を「守る・育てる・学ぶ・活かす」の意義が実感できます。最初に育樹祭で会場を彩る巨大なリースを全員参加で作ります。山に生えている藤、山ぶどう、ミツバアケビ等のツルで出来た大きなリースに、様々な飾り(松ぼっくり、杉の枝など)を取り付けました。ツルは自然豊かな山の恵みですが、絡み付いて、木の育成を妨げるので、伐採して活用しています。

◎巨大リース作り



START

スタンプラリーに
いってきます!!

◎丸太切り体験

ギコ
ギコ

◎森のクラフト

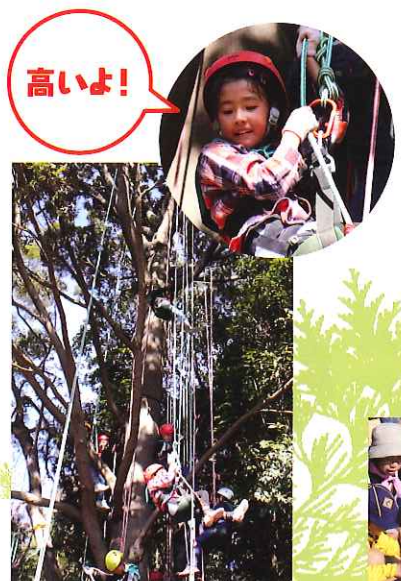
森のクラフトは、小さい子にも楽しめる、簡単な木工。小笠山森の会の広野さんが教えてくれました。



◎森下クッキング (バウムクーヘン) & 炭焼き体験

スタンプラリー方式で様々なプログラムを体験します。『炭焼き体験』では、まず生木と炭を持ち比べ、重さの違いを確認。炭焼き釜に木を詰める作業など、炭が出来る過程を学習できます。『バウムクーヘン作り』は、竹にケーキの生地を塗り、炭火で焼くのを20回以上繰り返す、なかなか根気のいる作業。子供達は、あまりの暑さに顔をしかめながら、「美味しいのを作るぞ!」と頑張っていました。

◎木工体験



ツリークライミングは樹木を管理するために開発した技術を、レクリエーション化したもので、専用のロープやサドル、安全保護具を利用して木に登り、木や森、自然との一体感を味わう体験活動です。

静岡県中遠農林事務所 森林整備課 主査 宮田満利子 さん

森のイベントは、林業関係の方がたくさん参加しているので、その方たちと触れ合って、森の素晴らしさを感じてほしいと思っています。そして、たくさんの方に全国育樹祭への興味を持って頂きたいですね。



13

地図 NO.

イベント名

山の日 の集い

主催 第36回全国育樹祭静岡県実行委員会 問い合わせ先

054-221-2916 (鈴木)
0558-72-9893 (浅田)

林業機械の複雑な動きに釘付けの男の子たち。

最新林業機械の迫力に息をのむ

9時の開場にあわせて、お客さんが続々と集まり始めた伊豆の収穫祭。ドームに寄り添うように並ぶ特産物のお店からは、早くも、いい匂いが漂ってきます。屋外の実演会場では、最新林業機械のオペレーションに、大人も子供も夢中です。高性能ロボットの様に長いアームを器用に動かし、目標の木に向かいます。そして、木を捉えると「バキバキ」という轟音の中、あっという間に倒し、長さを整え、運びます。まるで動物の様に滑らかな機械の動きに、ギャラリーから感嘆の声が上がりました。このように間近で見られる機会は、なかなかありません。



地場の山の幸を使った屋台が人気。



間伐材の有効活用に向けての様々な試み

ギューイーン



チェーンソー国際チャンピオンの城所啓二さん。ギャラリーが見つめる中、小1時間で仕上げたのは、鹿の彫刻。

ドーム内からは、天城連峰太鼓の皆さんが叩く、勇壮な響きが聞こえてきます。森林関係のブースをのぞいてみると、NPO法人伊東里山クラブのブースでは、「ヒノキのサシェ作り」が無料で体験できました。こちらでは里山の保全、森林景観向上の取り組みを行っています。この日、サシェに使われた、伊豆檜(ひのき)のウッドチップは、使われずに放置されている檜の間伐材を有効利用するためにチップ化したものです。こうしてサシェを手作りしていると、森林資源の利活用を身近に感じ、良い香りに心が安らぎます。女性に人気がありました。

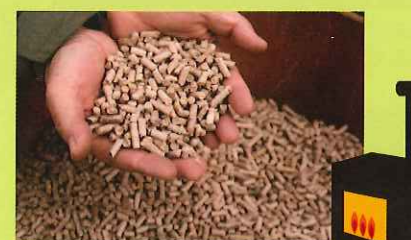


ウッドチップを詰めて可愛いサシェの出来上がり。



第36回 全国育樹祭静岡県実行委員会 鈴木崇弘 さん

林業機械の実演や木工体験、カービングショーなど色々なものを、実際に見て触れて頂くことで木の良さを理解して頂き、それを森林資源の活用につなげ、人工林も元気になるべくと良いと思っています。



100%木材から作られている木質ペレット。化石燃料と違い、CO2増加には影響を与えないエネルギーです。価格も灯油と変わらないくらい。地産地消の循環型エネルギーとして期待されています。





「きれいに出来た！」ヘンプ教室でのアクセサリー作りは女の子たちに大人気！



ワンダーフォレストテラの森代表
金子晶子 さん

この場から、里山のすばらしさを子供達に伝えていきたい。そのために、こういう(森林を活かした)施設を維持していくことが大事だと思います。

伊豆の自然にふれる休日…

南伊豆の「ワンダーフォレストテラの森」は、森を活かした宿泊施設です。自然の中に、キャンプ場、バンガロー、ティピテント、ツリーハウスなどが点在し、ハイキングや天体観測、ネイチャーゲームなどが楽しめます。こちらで、「地球縁日」というイベントが行われました。いつもは静かな森が賑やかな音楽に包まれ、沢山のアーティストが集まりました。豆の甘い香り漂う「味噌づくり体験」、ゆずなどを使う「自然素材を使った化粧品作り」、小さな子供達に人気だった「ヘンプアクセサリー教室」など、様々なワークショップが行われました。ウッドデッキでは、森の中の座談会が始まりました。「自然を大切にする事の意味」「伊豆の自然」など、森についての意見交換が行われていました。



「味噌づくり」は、講師に井上麴店のご主人を迎えて行われました。玄米・米・麦麴の味噌を皆で手作りしています。



ティピテントは、ネイティブアメリカンが使う円錐形の住居。中では写真展が行われていました。



出店はインド風チャイ、サモサ、ネパールカレー、フレンチなど、多国籍な内容で味めぐりが楽しい。



竹を活かして様々な活動を

秋深まる中、浜松市西区の神久呂小学校脇の竹林整備が行われました。昔は、竹を利用した製品が多くあり、竹林がしっかりと管理されていましたが、現在は人の手が入らず、放置されてしまう竹林がたくさんあります。その竹林を整備し、伐採した竹を有効活用しようと日々奮闘しているのが、はままつ竹資源利活用ネットワークの皆さんです。この日は、竹の伐採、切断、チップ化、トラックの積み込みが主な内容で、「小さな親切」運動の皆さんがお手伝いしてくれました。伐採された竹は、粉末化して有機肥料や家畜の飼料として活用できます。そのほかにも、会の皆さんの指導で、小学校での「竹細工体験」などに利用されています。



大勢でやればあっという間。竹林の中が明るくなりました。



竹のチップ化をしているところ。全国の放置竹林の問題解決に向けて、様々な試みが行われています。



チェーンソーで、竹に切り込みを入れる。慎重な作業。

はままつ竹資源利活用ネットワーク 会長 野島一男 さん

放置竹林を有効活用するために活動しています。たくさんの方が、こういう活動に参加してくれるようになると嬉しいですね。採った竹は、小学校で竹の葉簍を作る教室を開くなど、教材としても役立っています。



竹とんぼ

うまくとぶかな～?



家族連れに大人気だった「森と水辺を育てる会」のブース。



お父さんと一緒に夢になって工作に取り組む男の子。

親御さんたちが、なかなか教えられないこと

「今の親世代は、手刀などを上手く使えない。子供に教えるのも、なかなか難しいだろうから、こういう機会を上手に活かしてほしい」と語ったメンバーの方。「親が覚えて、子供に教えてほしい」と、親子連れに熱心に指導している姿が印象的でした。材料の竹は、里山を再生させるために、放置竹林から伐採されたものです。森を守り、育て、その過程で伐採される竹を、有効に活用しています。会の方達は、「子供達に山の手入れの大切さも楽しさも伝えていきたい。今度は山へいらっしやい」と参加者に言葉をかけていました。次の世代の子供達に森への関心を持ってもらいたい、そんな強い思いが込められていました。



当てるぞっ！
どーん！

竹鉄砲的当ての、ボン！という爽快感が会場に響きます。

B
o
o
o



工作教室は「楽しい！」作った竹笛を吹く男の子。



竹馬体験は子供達に大人気。

NPO 森と水辺を育てる会 理事長 大木一範 さん

里山の保全と竹林の資源活用のために伐採した竹を活かして、工作教室を開いています。こうした活動を通して、子供達、特に若い世代の親子に、里山の大切さと楽しさを伝えていきたいと思っています。

